

質の高い健康情報の発信で、 地域の人たちの健康をサポートしたい。

首都圏を中心に21店舗の薬局を経営する(株)フォーラル。

「薬と食のプロ集団」として地域に密着し、幅広い健康サポート活動を展開している。

『待合くん』導入に携わった方々に経緯と効果を伺った。

株式会社フォーラル とまと薬局 (東京都江東区)

管理栄養士 若林由香氏 (左) / 薬局長 山崎映理香氏 (右)



地域に密着した 幅広い健康サポート活動

「薬と食のプロ集団」として、薬剤師と管理栄養士が一緒になって地域の人たちの健康をサポートする(株)フォーラル。薬だけでは治すことのできない病気の治療や病気の未然予防のアドバイスをする管理栄養士と薬剤師が連携を取って、地域の方々の健康づくりをサポートしている。『待合くん』の導入は、質の高い健康情報の発信が目的で、オリジナル番組を含む様々なコンテンツを待合室で流している。



(オリジナル番組)

飽きずに見てもらえるのが 最大の魅力

導入のきっかけは、社長の松村氏がお世話になっている医療機関で『待合くん』を知ったからだという。「以前は手作りの

掲示板で情報を発信していたのですが、静止画だとずっと見ている訳にはいきません。『待合くん』の動画は、待合室に居ながらいろいろな情報を得ることができ、飽きずに見てもらえるんです」と山崎薬局長。「壁に貼ってある情報の場合、その内容に興味のある人は壁に近づいて掲示物を見てくれますが、興味のない人は見てくれません。その点映像であれば自然に見てもらえるので、患者さんの健康に対する意識を高める効果もあると思っています」と話す。同じ映像でもテレビと比較しても、「テレビの場合、番組の途中から見ることになってしまうので、内容が分からずに目で追うだけになってしまうことが多いのですが、『待合くん』であれば数十秒、数分といった短い番組で区切られているので、すぐに内容に追いつくことができます」と若林さんは話す。内容ごとに一つの番組として完成しているので、患者さんに情報をわかりやすく伝えることができる点が、『待合くん』の特長だ。

「KOTO活き粋体操」で 行政の活動の推進にも貢献

江東区独自の健康長寿体操である「KOTO活き粋体操」の普及推進にも『待合くん』が一役買っている。江東区が地域住民の健康推進のために制作した「KOTO活き粋体操」を待合室で流した

ところ、「いくら掲示板で告知をしても浸透しなかったのですが、映像を流したら患者さんが薬ができるのを待っている間に自然と体操をされるようになったんです」とのこと。実際に高齢者の方が体操をしている姿を映像で見ることによって、自分にもできそうだと感じてもらえてのだろう。山崎薬局長は、「KOTO活き粋体操を広げたいと考えている江東区に、薬局が少しでも役に立つことができればと考えています」と話し、KOTO活き粋体操普及推進のために今後も力を入れていくつもりだ。このように『待合くん』の導入が、行政との連携を取るきっかけになり「健康のためには食だけでなく、KOTO活き粋体操のように身体を動かすことも重要です。薬剤師と管理栄養士で協力し合って地域の方の生活全般をサポートできるようにしていきたいと考えています」と話す若林さんから、とまと薬局のさらなる事業の発展に期待が高まる。



(とまと薬局)